

2013年6月
1054号

万葉

Manyō

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

レソト王国タバネ首相閣下御一行の歓迎式典・被災地視察と復興支援

～ボランティアでおもてなし～

梅雨の晴れ間の6月3日、目黒雅叙園にて、レソト王国モツォアハエ・トーマス・タバネ首相閣下御一行の歓迎式典を日本レソト友好協会・一冊の会主催で開催いたしました。翌日の6月4日には、タバネ首相閣下御一行の被災地・福島と仙台への訪問を先導し、閣下と共に復興支援活動を実践して参りました。真の国際支援とは何かを考え、参加者一人ひとりが真心を尽してタバネ首相閣下御一行をおもてなしをした2日間でした。

2013年6月1日から3日間、第5回アフリカ開発会議が横浜で開催されました。5年に一度、アフリカ各国の要人が一同に日本に会ずるこの会議に合わせて、レソト王国の首相閣下御一行も来日されました。特に今年はアフリカ連合AUの前身のアフリカ統一機構が発足してから50周年の記念の年です。「投資の相手」へと変わってきたアフリカ各国とお互いをパートナーとし、協力していくには、国同士の付き合いの他に人と人とのぬくもりのある交流、お互いを信頼する絆が必要です。一冊の会は、第4回のアフリカ開発会議に合わせて日本レソト友好協会を立ち上げました。そしてこの5年間、様々な活動によりレソト王国と友好関係を築き、絆を深めて参りました。

多くの議題を話し合うアフリカ開発会議は、超過密スケジュールが組まれています。タバネ首相閣下は、お忙しい会合の合間を縫って、私共の歓迎式典にご臨席くださいました。本当にありがたいことです。今回の歓迎式典は直前に日程変更が度重なり、ようやくの開催でした。何と少しでも日本レソト友好協会としてレソト王国をお迎えしたいという大槻会長の一念に、賛同したメンバーが自分にできることはなにかと知恵をしばり奮闘した結果が見事に実を結んだ当日でした。会議の日程に加え、レソト王国と駐日レソト王国大使、日本の外務省、皇室、被災地、日本レソト王国友好協会、一冊の会、福島県庁、相馬市役所、目黒雅叙園、UN Women さくら、甚野先生等、全12か所全てに折り合いをつけ、合意の上での開催でした。調整を一手に担われていた大槻会長の心痛やいかばかりかと思うと本当に頭の下がる思いです。残念ながら当日会場にお越しいただけなかった方も数多くいらっしゃると伺っております。当日会場にお越しいただけなかった皆様にも、この万葉を通して少しでも当日の様子をお伝えできればと思い記させていただきます。

■ 6月3日 タバネ首相閣下御一行の歓迎式典（目黒雅叙園）

バイオリンとピアノの調べが会場を包み込む中、歓迎式典が始まりました。演奏はデュオ・ガーランドのお二人です。会場入り口の観音扉が開き、首相閣下を先頭に御一行の堂々たる入場です。会場に駆けつけた皆様がレソト王国と日本の国旗を両手に持ち、千切れんばかりに振って歓迎の思いを表す中、まず始めに、レソト王国に敬意を表して国家を斉唱。鬼童さんの歌うレソト王国国歌が高らかに響き渡りました。初めて日本を訪れるタバネ首相閣下のおもてなしは日本の正装をと、女性は着物や振り袖を着てのお出迎えです。大和撫子の艶やかな振り袖姿にレソト王国の皆様も大変お喜びの様子でした。プ

レゼント贈呈では、日本とレソト王国の平和友好の絆が永遠でありますようにとの願いを込めた軸装作品 4 点「勇気・希望・微笑・永遠」(平間秀慧さん書)、その他多数の品をお送りいたしました。いずれも、一冊の会の先輩達がこの日の為に心を尽して用意された品々です。高価な物ではありませんが、真心だけは誰にも負けないプレゼントが 2 3 点も並びました。プレゼンターの最後を飾るのは、21 世紀を担う赤ちゃん、子ども達の代表三名です。愛らしいプレゼンターからおもちゃを受け取られたタバネ首相閣下はニコリ笑顔をお見せになりました。首相閣下はきっと、脳裏に自国の子供達がこのおもちゃを持って遊ぶ姿と、幼い子供達が日本とレソトの友好の架け橋を次代へ繋いでいく様子を思い描かれていたことでしょう。

レソト王国は、東日本大震災後に真っ先に被災地支援を実行くださった支援国の一つです。今回のタバネ首相閣下御一行を、今か今かと一番首を長くしてお待ちしていたのは被災地の地元の皆様だったのかもしれない。その思いが通じたのか、タバネ首相自ら被災地への視察をご希望されたと伺っています。翌日の被災地訪問に先立ち、歓迎式典にて、一冊の会の被災地支援活動についてご報告させていただきました。徹底したのは顔の見える支援です。日本レソト友好協会がパイプ役となり、レソト王国から頂いた真心溢れる物資を、現地へ運び、被災された一人ひとりへ手渡して届けて参りました。支援活動の一つ、図書の贈呈については責任者をしている高橋さんご本人が発表されました。また、支援活動の一環としてプロスパーポローニャ(桐)の木を被災地の小学校に植樹しました。被災地への植樹第一号はレソト王国大使のお手植えです。その他にも東北被災地支援活動は多数に渡り、物資の運搬は 59 回にのぼりました。一冊の会親善大使ドン・アルマスと UN Women さくらの親善大使のカズンは、今も仮設住居等でミニコンサートを続けております。

左：大槻会長、中央：タバネ首相閣下



歓迎式典には、モツォアハエ・トーマス・タバネ首相閣下を始め、モヘラビ・ケネセ・ツェコア外務大臣、モエケツィ・マジヨロ開発企画大臣など多くのレソト王国の皆様のご臨席を賜りました。時間の都合上、皆様にお話頂くことが出来ませんでしたのは大変残念でしたが、レソト王

国を代表し、タバネ首相閣下よりご挨拶を賜りました。幼少期の頃の家庭環境など自らを赤裸裸にお話になられた首相閣下に、初めて会った国も人種も違う私達にも心をオープンにしてくださる大らかさと表裏のないお人柄を感じました。また、会場の私達と同じ目線で語ってくださるタバネ首相閣下の真心に胸が熱くなりました。首相閣下のお話には、特に女性の力が必要とのお言葉もありました。今回のアフリカ開発会議の議題の一つになっていたのが、この女性のエンパワーメントに関するものでした。会

場中が女性のエンパワーメントに対する思いは世界共通、と一層の努力を各々が誓い合う場となりました。

この度の歓迎式典には、思いもかけず、衆議院議員福島みずほ様、参議院議員谷合正明様、福島県副知事内堀雅雄様、アフリカ紛争・難民問題担当大使・佐藤啓太郎様のご臨席を賜り、お言葉を頂戴することができました。また、麻生太郎副総理・財務大臣（元総理）を始め多くの皆様よりメッセージをお寄せいただいております。多くの皆様にご支援いただき、歓迎式典を無事に開催できましたことを心より御礼申し上げます。

会の最後を飾るのは踊りと音楽のおもてなしです。広島からのご出演で藤間華豊師範らによる日本舞踊「新かのこ」の舞。UN Women さくら及び JICA の親善大使であるカズンは、アフリカのウガンダを訪れ子ども達と一緒につくった歌をプロモーション映像と共に披露しました。この歌は今回のアフリカ会議で何度も流されているものです。ウガンダの子ども達がカズンと共に楽しそうに伸び伸びと歌う姿と歌声に、未来への希望を感じた方も多くいらっしやったことでしょう。音楽に国境はなく、思いは通じると感じたひとときでした。時間も差し迫る中、一冊の会親善大使ドン・アルマスによる心沸き立つ演奏がトリを飾ります。ドン・アルマスの心を揺さぶる気迫の演奏に感動されたタバネ首相閣下から、なんとアンコールがかかる一幕も。予定時間を過ぎ、ついにタバネ首相閣下御一行がご退場される際には、日本とレソト王国の今後の更なる友好を願い、全員で「小さな世界」を大合唱してのお見送りとなりました。会場に華を添えたのは着物の女性達。全てが手作りで、私達の首相閣下御一行を歓迎したいという思いだけで一から作り上げてきた歓迎式典でした。この度の歓迎式典が大成功に終わりましたのも、会場を陰で支えてくださった皆様、遠方から成功を願ってお助けくださった皆様のおかげでございます。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。日本をあげてのおもてなしの思い、必ずやタバネ首相閣下に届いていると確信しております。

■ 6月4日 福島県・相馬市表敬訪問と被災地視察

真心の歓迎式典から一夜明け、タバネ首相閣下御一行は被災地の福島県相馬市をご訪問されました。記念すべき第60回目の支援をタバネ首相閣下と共に行えましたことを嬉しく思います。レソト王国は、山地が多く、穏やかな気候に恵まれた国であり日本と同じように四季もあります。梅雨の真っ只中の日本ですが、雨もまるでタバネ首相閣下に遠慮したかのように晴天に恵まれ、用意していたうちわが大活躍でした。うちわは櫻華塾の若手メンバーが千年以上続く相馬の野馬追のデザインを用いて作った手作りの一品です。記念のうちわを手に福島県の佐藤雄平知事を表敬訪問され、佐藤知事から災害と復興の現状をお聞きになり、タバネ首相閣下も真摯に耳を傾けていらっしやいました。続いて向かわれたのが相馬市です。災害前はのどかな田園風景が広がっていた原っぱに立たれたタバネ首相閣下は、全てを飲み込んでいった津波の脅威に思いを馳せていらっしやるようでした。震災復興へ心を寄せられていらっしやるタバネ首相閣下の思いから、被災地の小学校にプロスパーポローニャ(桐)の木を植樹いただきました。地元の子供達と一緒にスコップを持ち、丁寧にお手植えをされるご様子から温かな慈愛の心を感じました。そっと肩に手を置き、心を寄り添わせお励ましくくださったのも市民を思うお優しいお人柄あつてのことと思います。以前、レソト王国大使がお手植えになられたプロスパーポローニャ(桐)の木は、すくすくと成長し、今や2mを超える高さになっているそうです。また、首相閣下の訪れを待ちきれないかのように、昨年、早々と花を咲かせていたとの報告を受けています。本来は植樹してすぐに花を咲かせることはない木だそうですが、そこは生命の不思議。この度、首相閣下がお手植えされたプロスパーポローニャ(桐)の木はどのように成長するのか今から楽しみです。

相馬市に向かわれたもう一つの目的は、井戸端長屋に立てられた雪香灯です。雪香灯は2012年9月相馬市の災害共同住宅に設置した、世界初の最新の蓄電池を備え、ソーラーと風力発電により永遠に輝き

続ける街路灯です。首相閣下も消えることない光を灯す雪香灯をまじまじとご覧になりました。もしかすると、この街路灯がレソト王国を照らす日を思い描かれていたのかもしれませんが。相馬市佐藤憲男副市長の表敬訪問では、なんと伝統のうちわにタバネ首相閣下のサインをいただくことができました。相馬市には災害前の写真、災害直後の写真、徐々に復興が進む様子までがパネル展示してありました。そして支援をいただいた団体・個人の名前と日付が壁一面、天井に届くまで貼られていました。日本のみならず、世界中からの支援を私達は忘れない、必ず復興してみせる！という決意が伝わってくるようでした。

タバネ首相閣下は、その後も相馬から仙台まで被災地を自分の目で見て歩かれました。地元の方々お一人おひとりと握手を交わされるお姿に現場を思う心が伝わって参ります。タバネ首相閣下は大変お喜びいただいてご帰国されたと伺っております。首相閣下の後ろ姿に、私共も被災者と心を分かち合い、さらに絆を強くして共に復興を成し遂げようとの思いが強くなりました。

被災地視察の大成功の陰には、相馬市秘書課の皆様がスケジュールに沿って担当を決めて献身的にバックアップくださいました。心のこもった受け入れ態勢は感謝の思いで一杯です。秘書課の皆様から一最敬礼一。

左から：大槻会長、タバネ首相閣下、小山理事長、佐藤副市長

この度、「ボランティアでのおもてなしを」の精神で歓迎式典と被災地視察・復興支援を無事故でやり遂げました。レソト王国と日本は、お互いが協力し合うパートナーです。遠く離れたアフリカのレソト王国に、日本からこれまで数多くの支援を行って参りました。日本が東日本大震災に見舞われた時は、真っ先にレソト王国が支援の手



を差し伸べてくださいました。今も復興支援は続いています。政治で国を支えるタバネ首相閣下に日本の被災地の現状をご覧いただき、歓迎の心を伝えられた今回の来日は何より日本とレソト王国の絆を深めたに違いありません。日本人として今回のタバネ首相閣下御一行の歓迎式典・被災地視察と復興支援に関わった全ての方々が、レソト王国に対する思いを強めたことでしょう。思いだけで支援が成り立つ訳ではありません。品物を集めるのも送るのも簡単ではありません。ましてや継続するのはもっと難しいです。それでも、お互いをパートナーとして認め合い、本気で相手を支え応援する気持ちを持って協力し合うことが国際支援の第一歩ではないかと思えます。これからまた一步二歩と歩みを進め、5年後の第6回アフリカ開発会議に向けて新たな国際支援にチャレンジして参ります。被災地に植えたプロスペローニャ（桐）が、その名の通り「繁栄」を築く大木となる日を目指して、仲間と共に支え合い挑戦して参りたいと思います。

文責：瀧